

運命はいつも女の味方。



インドシナ

NISSAN J.フェリー CINE SPECIAL
INDOCHINE

カトリーヌ・ドヌーヴ主演

●監督: レジス・ヴァルニエ ●脚本: ルイ・ガルデル/エリック・オルセン/カトリーヌ・コーエン/ルジス・ヴァルニエ ●製作: エリック・コーマン/ジャン・ラヴァチ ●撮影: フランソワ・カトネ ●美術: ジャック・ゼュフ/ワール ●衣装: ガブリエラ・バスキッチ/ビエール・イザゴロ ●

ヴァンサン・ペレーズ/ジャン・ヤンヌ/リン・ダン・ファン/トミニク・ブラン

●ノベライゼーション: インドシナ・クリスチャン・ドゥ・モンテラギ ●音楽: パトリック・ドイル(サントラ盤・ポニーキャニオン) ●1982年フランス映画 ●提供: テラコーポレーション/ヘラルド・エース/フジテレビジョン ●配給: ヘラルド・エース/日本ペラルム映画 ●配給協力: テラコーポレーション ●後援: フランス大使館 ●放映: 日経自動車 ●

インドシナ

INDOCHINE

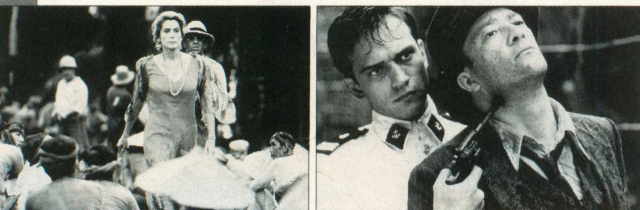
愛だけが、運命を変えられる。

インドシナに魅せられた フランス女性の波瀾万丈の生涯

ドラマはカトリーヌ・ドヌーヴの魅惑的なナレーションで幕を開ける。「世の中には離れられないものがある。男と女、山と平野、人間と神々、インドシナとフランス…」。

1930年、仏領インドシナ。祖国フランスを知らないヒロイン・エリアーヌ（ドヌーヴ）は、この地に魅せられている。穏やかに流れる川、高貴な民族、古風な暮らし。広大なゴム園を所有し、ベトナムの皇女を養女（リン・ダン・ファン）とすることで、この地にアイデンティティを見いだそうとしていた。エリアーヌは多くの恋をして来たが、心を奪われたことはなかった。結婚には不向きな女だった。養女のカミーユは16才、まだ恋を知らなかった。輝くばかりに美しい二人は、栄華を極めるフランス人社会で常に羨望の対象だった。

姉妹のごとく仲睦まじい二人の前に、美貌のフランス人将校ジャン＝バティスト（ヴァンサン・ペレーズ）が現れ、母娘がそれぞれに彼を愛するようになった時、三人の運命は思わぬ方向へ進んで行く。エリアーヌは娘を守ろうとする一心で、愛する男を辺境の地に追放する。彼を追って旅に出るカミーユ。そんなとき、ベトナム人による民族独立運動が沸き起こり、歴史は大きく変わろうとしていた。フランス人将校とベトナム皇女の愛の逃避行は伝説の物語となり、革命に火をつけた。エリアーヌは騒乱のインドシナに娘を探しまよふのだが……。



スター誕生／ヴァンサン・ペレーズ

監督のレジス・ヴァルニエは44才の新進気鋭。古典文学に精通し、クロード・シャブロール、フォルカー・シュレンドルフの助手をへて、デビュー作の「悲しみのヴァイオリン」でセザール賞新人監督賞を受賞している。

二人の女を虜にするジャン＝バティストに、「シラノ・ド・ベルジュラック」の美青年クリスチャンを演じたヴァンサン・ペレーズ。彼の気品に、ヴァルニエ監督は、一瞬で魅了されたという。恋を知り、祖国を再発見するベトナム皇女カミーユには、200人のオーディションのなかから選ばれた新人リン・ダン・ファン。

あまりにも叙情的な音楽は、「ヘンリー五世」で英国アカデミー賞を獲得したパトリック・ドイル。1,800着に及ぶ衣装は、フェリーニ作品の常連ガブリエラ・ベスクッチ、ピエール＝イヴ・ゲロー。

撮影は、ベトナムで始まり、マレーシア、パリを経て、スイスでクランクアップした。



カトリーヌ・ドヌーヴ主演

ヴァンサン・ペレーズ／リン・ダン・ファン／ジャン・ヤンヌ／ドミニク・ブラン
監督：レジス・ヴァルニエ ● ノベライゼーション：二見書房刊 ● サントラ盤：ポニーキャニオン
1992年/フランス映画 ● 提供：デラ・コーポレーション/ヘラルド・エース/フジテレビジョン
配給：ヘラルド・エース/日本ヘラルド映画 ● 配給協力：デラ・コーポレーション ● 協賛：日産自動車

可憐、魔性、情熱、野性 ドヌーヴの魅力の全てに満ちている

フランス人すべての憧れの地インドシナ。今年、大ヒットしたフランス映画「ラマン 愛人」でも同じ時代のインドシナを描いていたのは記憶に新しい。

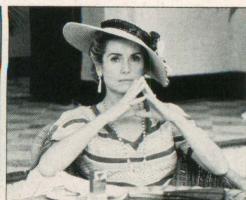
フランスの植民地の栄枯盛衰の歴史の流れに翻弄されながらも、精一杯、愛と夢を追いかけるヒロインを演じるのは、フランスを代表する女優カトリーヌ・ドヌーヴ。トリュフォーやブニュエルなど超一流の監督に愛され、一方で、ロジェ・パディム監督や、マルチエロ・マストロヤンニらと浮名を流す恋多き女。パリ・ファッション界では女王として君臨。

本作は彼女のために作られた。4人の脚本家が彼女をイメージして1年間かかって書き上げた。一人の女優のために映画が作られることは極めて希有なことである。くしくも、「インドシナ」は彼女の70本目の出演作にあたる。

また、製作費30億円というフランス映画史上空前のエンターテイメント超大作であり、これまでアートフィルムに出演の多かったドヌーヴにとって、女優生命を賭けた意欲作である。ヒロインは、「シエルブルの雨傘」の可憐さ、「昼顔」の魔性、「終電車」の情熱、「うず潮」の野性といったドヌーヴの魅力のすべてに満ちている。その華麗な演技は、フランスのマスコミに絶賛を博し「ドヌーヴはガルボ、ディートリッヒを越えた」とまで言われ、興行的にも大ヒットを記録、現在もロングランを記録更新中。

そのフランスの名花カトリーヌ・ドヌーヴが先頃来日、記者会見でサングラスをはずさないなどその誇り高きふるまいが連日、マスコミのトップニュースとなり、大女優の健在を大いに証明した。一方で、デパート、蚤の市に向いては骨董品を買いあさり、夜は、新宿、六本木などの繁華街に出没する好奇心の強さと行動力に、意外に気さくな一面を見せていた。

(上映時間:2時間39分)



10月3日(土)ロードショー

特別鑑賞券¥1700好評発売中/定員制・入替制(予め混雑状況を)確認下さい。

当日料金¥2000(税込)

●お問い合せ

Bunkamura 03-3477-9264

●ル・シネマ1 曜日 12:00 15:30 19:15 ●ル・シネマ2 曜日 11:00 14:30 18:20

Bunkamura 開館3周年記念

Bunkamura
ル・シネマ

Bunkamuraを支えるオフィシャルサプライヤー

NEC ● NTT 情報機 HITACHI ● 東京銀行

